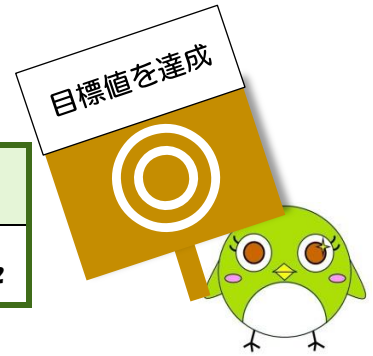


3. 自然環境の保全

目標指標 西山の森林のCO₂吸収量

平成29年度の目標	平成29年度の結果
1,416t-CO ₂ 以上	1,487.08t-CO ₂



(1) 西山の保全・再生・活用

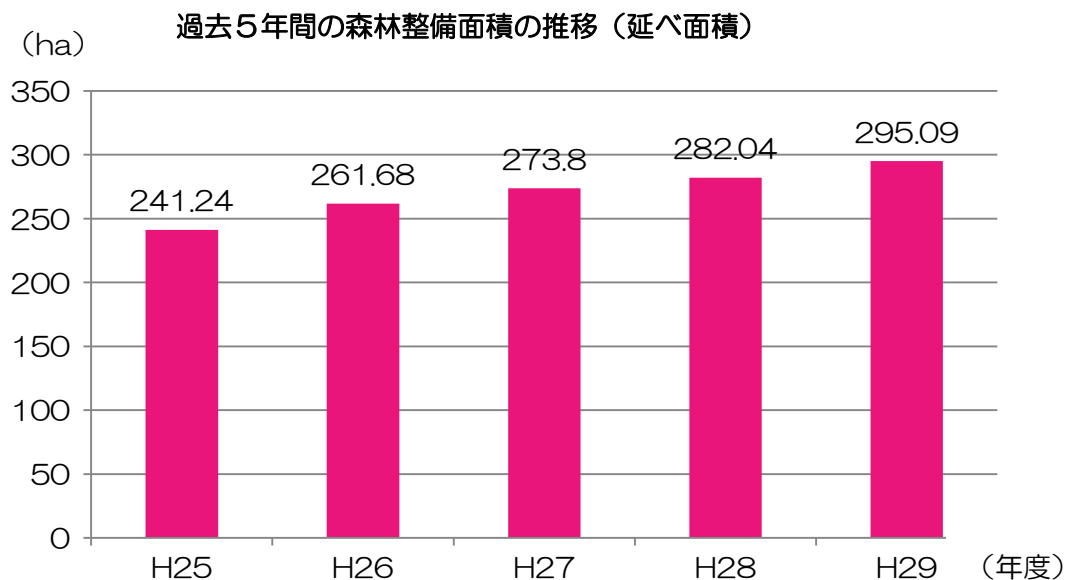
①西山の森林整備

森林整備面積（竹林含む）

平成29年度の目標	平成29年度の結果
延べ288ha	延べ295.09ha



森林整備とは、森が健全に育成し、地下水の保全などの機能を維持していくために行うものです。間伐と言って木を間引いたり、枝をはらったりして、木の成長を助けます。このような整備で、木が吸収する二酸化炭素の量が増え、地球温暖化対策にもつながっています。平成29年度は13.05haの整備を実施し、延べ295.09haとなりました。



森林整備面積のうち利用間伐面積

平成29年度の目標	平成29年度の結果
延べ11ha	延べ11.54ha

長岡京市では、森林を整備して出た木材等を利用する「利用間伐」を進めています。平成23年11月には、「公共建築物等における長岡京市産材の利用促進に関する基本方針」を策定しました。

平成29年度は、神足保育所内装材、西代里山公園のテーブル・イス、スポーツセンターのテーブル・ベンチ、図書館のイス、市議会の室名札及び議員名札に利用しました。

※間伐（かんばつ）…健全な森林育成のために樹木を間引くこと。

※利用間伐…間伐したその木材を利用すること。



西代里山公園のテーブル・イス

②西山の生態系の保全

モニタリング1000里地調査の支援

平成29年度の目標	平成29年度の結果
調査項目4項目	調査項目4項目

環境省が実施するモニタリング1000里地調査に、ボランティアの皆さんが参加しています。この調査は、全国の多数の場所で統一した方法により、各種の調査を行うものです。長岡京市内では、西山をフィールドとして哺乳類、鳥類、チョウ類、植物相の4項目の調査を実施しています。継続的に調査をすることで、この区域に住む生物の保全につなげていきます。

また、調査開始から10年を迎え、そのまとめ方について調査員同士の意見交換を行いました。



③西山の有効活用

西山キャンプ場の有効活用

平成29年度の目標	平成29年度の結果
老朽化した付帯設備等の修繕と有効活用	老朽化した付帯設備等の修繕と活用方法の検討

平成29年度は、台風等の影響により破損した橋、給水管の修繕を行いました。また、川沿いの道を保護するため、護岸整備を行いました。

今後の活用方法については、関係課と協議を行いました。



④森林組合の育成

森林組合の組織運営維持

平成29年度の目標	平成29年度の結果
組合員数104人	組合員数104人

西山の森林整備を進めるために、長岡京市森林組合の組織運営、森林整備活動、研修、イベント参画などの活動を事務局として支援しました。



(2) 竹林の保全・再生・活用

①竹林の整備

竹林整備面積

平成29年度の目標	平成29年度の結果
延べ17.14ha	延べ19.13ha

西山の住宅地に接する部分の多くが竹林です。ブランドの長岡京のたけのこを産出する場所ですが、住宅地に近いため、放置されると通行を妨げ、森林に侵入して竹林が広がっていくこともあります。

そのため、森林の整備とともに竹林の整備も行っています。今後も引き続き、平成27年4月に改定した西山森林整備構想における最優先課題として竹林整備に取り組んでいきます。



②竹の利活用の調査研究

竹粉・竹チップの累計活用量

平成29年度の目標	平成29年度の結果
累計52m ³	累計74.1m ³

タケノコを特産物とし、多くの竹林を持つ乙訓の2市1町（向日市、大山崎町、長岡京市）では、伐採された竹の処理方法が共通の課題です。

公共施設を管理する関係部署に、防草剤としての竹チップの活用を働きかけたところ、平成29年度は、昨年度に引き続き東第二浄水場で9.8m³を活用しました。



(3) 環境にやさしい農業の推進

①低化学肥料農業等の推進

有機栽培に対する補助金の交付

平成29年度の目標	平成29年度の結果
300千円/年	300千円/年

特産品の花菜の^{ほじょう}圃場に使用する有機栽培のためのたい肥購入に補助金を交付しています。現在、長岡京市の28戸の農家で栽培している花菜は、平成2年に「京のブランド産品」の指定を受けるとともに、平成17年から「京都こだわり生産」の認証を受けています。



花菜（はなな）

②市民農園の充実

シルバー農園の運営

平成29年度の目標	平成29年度の結果
利用者数 181人 (最大定員)	利用者数 169人

長岡京市では、高齢者の生きがいづくりのために60歳以上の方を対象とした「シルバー農園」を運営しています。

市内3か所の農園で、169人の方が利用されています。農地の確保が難しい現状もありますが、利用者の健康増進に向けて、今後も継続的な運営を行っていきます。



③地産地消の推進

地産地消推進協議会の開催による取組みの充実

平成29年度の目標	平成29年度の結果
学校給食納品額 916万円	学校給食納品額 740万円

長岡京市の全10校の小学校すべてで地元産の野菜を給食に使用しています。平成29年度は、全給食費の約3.1%分が地元での野菜購入費になりました。特産のナスやタケノコ、花菜なども提供されており、子どもの食育の面からも効果をあげています。



④農地の保全

農地パトロールの実施及び農地銀行制度の活用

平成29年度の目標	平成29年度の結果
遊休農地 11.5ha以下	遊休農地 11.7ha

長岡京市の農地は、平成29年度末現在で254.2haあり、そのうち11.7ha（4.6％）が遊休農地となっています。

遊休農地とは、農作物を収穫するために使われていない農地のことです。農地の適正な管理やまちなかに多くの農地がある貴重な景観の保全の観点からも、今後も農地パトロールの実施や農地銀行制度の周知を図っていきます。（※農地銀行制度…農家間で農地の貸し借りを円滑に行うための本市独自の制度。農業委員会が仲介を行う。）



（４）水辺環境の保全・再生

①河川・水路の維持管理

河川清掃支援

平成29年度の目標	平成29年度の結果
参加者数 270人	参加者数 254人

河川や水路などの清掃を行う個人や団体にごみ袋を交付しています。平成29年度は254人が河川清掃に参加されました。

近年、集中豪雨などにより水路などが氾濫する危険もあります。地域の方による日頃の清掃活動やポイ捨てをしないなどの行動がまちを守ることにつながるため、今後も引き続き支援を行います。



②ホタルの保護と育成

ホタルの人工飼育、保護育成の市民啓発・小泉川流域での河川清掃

平成29年度の目標	平成29年度の結果
ホタルの生息地域 西代橋～菩提寺橋まで拡大・観賞のタベ、捕獲防止パトロールの実施	ホタルの生息地域 西代橋～菩提寺橋まで拡大・観賞のタベ、捕獲防止パトロールの実施

長岡京市西部を南北に流れる小泉川には、ゲンジボタルやヘイケボタルが生息しています。特にゲンジボタルは、水がきれいなところでしか生息しないとされており、市内でも数が減少してきています。そのため、長岡京市では「長岡京市ゲンジボタルを育てる会」とともに、河川清掃や卵からの人工飼育を行って、ホタルの保護と育成に取り組んでいます。



4. 快適な都市環境づくり

目標指標 住民一人あたりの公園面積

平成29年度の目標	平成29年度の結果
住民一人あたりの公園面積 3.04m²	住民一人あたりの公園面積 3.22m²



(1) 身近な緑の保全・創出

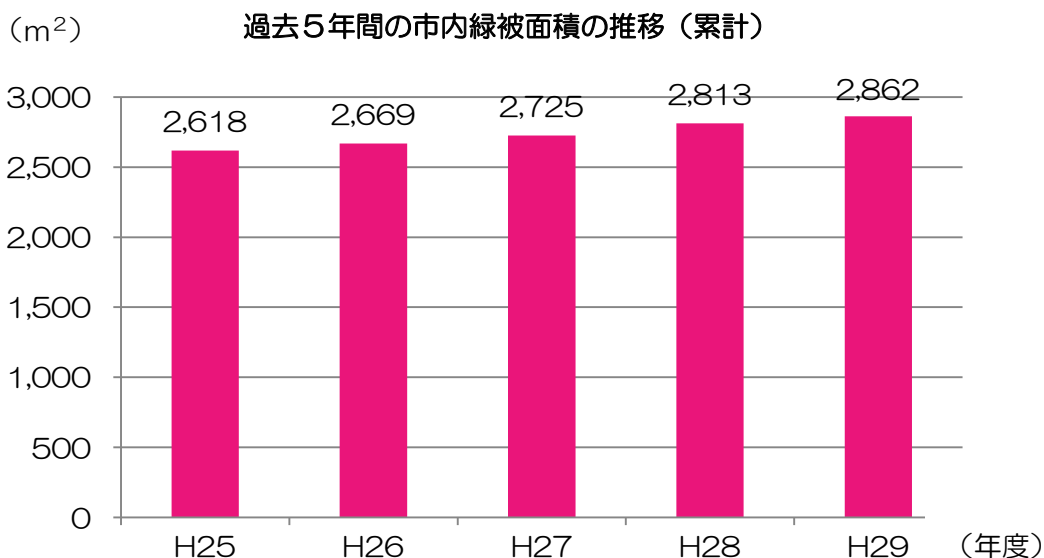
① まちなかの緑の創出

まちなかの公共空地等に植栽

平成29年度の目標	平成29年度の結果
まちなかに創出した緑被面積 累計 2,850m²	まちなかに創出した緑被面積 累計 2,862m²



緑の基本計画に基づき、まちなかに緑を増やし、魅力あるまちづくりを行うとともに、生物にとっても住みやすい環境づくりを行っています。



緑の講習会参加数・グリーンカーテンコンテスト等への応募数

平成29年度の目標	平成29年度の結果
参加・応募者数 350人	参加・応募者数 367人



住宅が多い長岡京市のまちなかでは、緑は貴重な資源です。

長岡京市では、緑ゆたかなまちづくりを推進するため、(公財)長岡京市緑の協会に委託し、緑の講習会やグリーンカーテンコンテストを実施しています。

平成29年度のグリーンカーテンコンテストにおいては、家庭部門(28件)、団体部門(14件)、合計で42件と昨年度(37件)より応募者が少し増加しました。



緑の講習会のようす

②公園緑地の整備・維持管理

新規公園の整備・既存公園の維持管理

平成29年度の目標	平成29年度の結果
住民一人あたりの公園面積 3.04m ²	住民一人あたりの公園面積 3.22m ²

※京都府下の平均 7.74m²(平成28年度)

本市は、市域が狭いうえ、約4割が西山に覆われており、自然公園や運動公園などの大規模な公園整備は難しい状況ですが、平成28年度には2.2haという広大な西代里山公園が完成しました。

今後も市民が憩える公園づくりや管理に取り組んでいきます。



平成28年5月開園 西代里山公園

③緑の協会と連携した緑化の推進

みどりのサポーター制度の普及

平成29年度の目標	平成29年度の結果
みどりのサポーター数 99団体	みどりのサポーター数 95団体



平成16年10月から始まったみどりのサポーター制度は、市内の公園や道路の掃除や植栽などを行うグループを支援する制度です。平成29年度は前年度と同様の95団体のサポーターの活動が市内全域で展開されました。

緑の協会に登録を行うと、花苗の提供や清掃用具の貸出などの支援が受けられます。「公園が雑草ではなく、草花がいつも咲いている場所にしたい。」「家の近くの道路はいつもきれいにしていきたい。」など様々な思いを持って、平成29年度は1,342人のサポーターが活動しました。

(2) 環境に配慮した都市の整備

①中心市街地における環境配慮型の都市基盤整備

歩道の透水性舗装や車道の遮熱性舗装の施工

平成29年度の目標	平成29年度の結果
長岡京駅前線整備に係る設計に反映	長岡京駅前線整備に係る設計に反映



歩道に雨水がたまりにくくするための「透水性舗装」や都市のヒートアイランド現象の抑制につながる車道の「遮熱性舗装」は、平成25年度に行った長岡京駅前線第3工区（産業文化会館前までの111m）の詳細設計に反映し、平成31年度の完了を予定しています。

また平成29年度には同第4工区（阪急長岡天神踏切をまたぐ223m）の詳細設計に反映し、事業推進に取り組んでいます。

阪急電鉄の高架化の検討

平成29年度の目標	平成29年度の結果
まちづくり協議会によるまちづくり構想策定・提案	まちづくり協議会によるまちづくり構想策定・提案

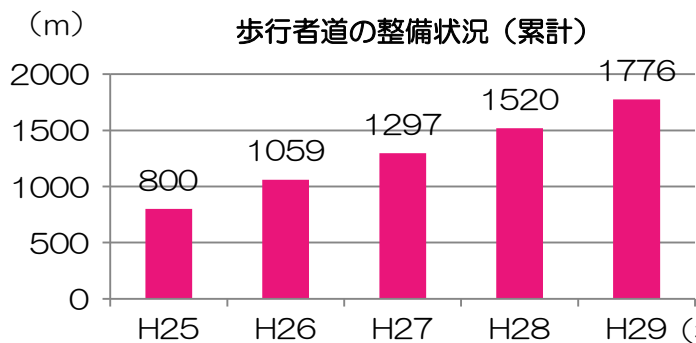


平成30年3月に「長岡天神駅周辺まちづくり基本構想」が策定され、市への提案が行われました。これを受けて平成30年度には、「長岡天神駅周辺まちづくり基本計画」を策定する予定です。

②歩行者優先の道路空間整備

歩行者道の整備・電線類地中化の推進

平成29年度の目標	平成29年度の結果
230m	256m



歩道の拡幅整備事業として平成29年度は、高台2丁目、3丁目地区において、延長256mの歩行者道の整備を行いました。

今後も歩行者が歩きやすいよう整備を行っていきます。



平成29年度の目標	平成29年度の結果
長岡京駅前線整備に係る設計に反映	長岡京駅前線整備に係る設計に反映

電線共同溝は、平成25年度に行った長岡京駅前線第3工区の詳細設計に反映し、事業に取り組んでいます。電線共同溝工事は平成31年度に完了予定です。

※電線共同溝工事とは、電線の設置・管理を行う2以上の事業者の電線を収容するため、道路管理者が道路の地下に設ける施設であり、道路上にある電柱を撤去し、電力線・通信線を地下に収容することにより快適な歩行空間の確保、景観の向上を図ることを目的としています。



③個性ある景観の保全・形成

「長岡京市景観計画」の内容見直し

平成29年度の目標	平成29年度の結果
公共施設景観形成方針等の検討及び審議	公共施設景観形成方針等の検討及び審議

まちづくり審議会において、重点地区及び地域特性に応じた区域を設定し、それぞれの区域における景観形成方針や具体的な基準について審議を行いました。また、公共施設景観形成方針や屋外広告物景観形成基準についても審議を行い、新景観計画の素案をとりまとめました。



(3) 歴史文化資源の保全・活用

①歴史的な名所の活用

神足ふれあい町家の活用

平成29年度の目標	平成29年度の結果
入館者数維持 (現状値：17,975人)	18,939人



神足ふれあい町家は、西国街道沿いにある江戸時代末期の商家です。風情ある町家建築の建物で、平成12年に国登録の有形文化財に指定されました。現在は、和室などをイベントスペースとして貸し出しています。入館者は昨年度より増加しています。

こうした歴史的な建物や名所を活用し、多くの人に訪れてもらうことで、長岡京市らしい文化やまちなみを今後も継承し、保全していきます。

②ふるさと資料館の整備

埋蔵文化財センターの啓発事業参加者数

平成29年度の目標	平成29年度の結果
参加者数 3,600人	参加者数 2,848人



市内に点在する文化財とその周辺環境を保全するためにも、長岡京市全域の文化財と展示施設を「まちなか博物館ネットワーク」として有機的につなぐ中核施設が必要です。

平成29年度は、目標には届きませんでしたが、講演会や歴史教室、埋蔵文化財センター設立35周年を記念した展示等を行い、昨年度より191人増加しました。

(4) 環境美化の推進

①地域の清掃活動の促進

530運動参加団体への支援

平成29年度の目標	平成29年度の結果
支援継続	108団体

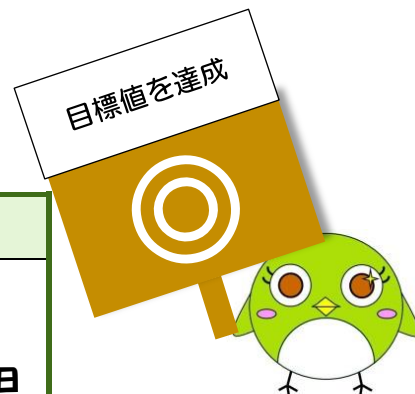


530運動とは、ごみを拾うことにより捨てない心を養い、散乱するごみの現状を自分たちの問題として考えようという運動です。5月30日（ごみゼロ）にちなんで、毎年この時期に、市内事業所や自治会なども参加して行っています。市では、この運動に参加していただく団体に、ごみ袋の配布や火ばさみなどを貸し出して、支援しています。平成29年度は10,270人の参加がありました。

②散乱ごみのない美しいまちづくり

美化パトロール・ワンワンパトロールの実施

平成29年度の目標	平成29年度の結果
美化パトロール実施回数 16回/月 2回/日 ワンワンパトロール 2回/日	美化パトロール実施回数 20回/月 2回/日 ワンワンパトロール 2回/日



ポイ捨ての指導・啓発を行ったり、散乱ごみを回収したりするなどのパトロールを行っています。回収したごみの量は、たばこ23, 563本、ペットボトル760本でした。

(5) 適切な環境管理

①環境調査の推進

各種環境調査の実施・小畑川、小泉川の水質保全

平成29年度の目標	平成29年度の結果
基準超過件数の減少 (現状値：10件)	基準超過件数12件
小畑川・小泉川 透視度：30cm以上 BOD：2mg/ℓ以下 PH：6.5～8.5の維持	小畑川・小泉川 透視度：30cm以上 BOD：0.5mg/ℓ以下 PH：7.8・7.9



市では、変化する地域の生活環境を継続的に把握するため、独自に河川水質、自動車騒音、環境騒音、窒素酸化物、農業用井戸水の調査を行っています。平成29年度の調査では、212項目中12件で基準値を超過しました。毎年10件前後の基準超過が見られますが、いずれも一時的なもので、特に異常は見られませんでした。

②環境保全に係る啓発

生活環境向上のための啓発

平成29年度の目標	平成29年度の結果
広報紙・市ホームページへの 生活環境マナー啓発記事の掲載	広報長岡京2回掲載 市ホームページ掲載



広報長岡京に啓発記事を2回掲載するとともに即時的な内容のものはホームページに掲載し、啓発に努めています。

5. 協働・環境学習・エコアクションの推進



環境ボランティア養成講座の延べ受講者数

平成29年度の目標	平成29年度の結果
受講者数延べ85人	受講者数延べ81人

(1) 市民活動サポート機能の拡充

①市民活動サポートセンター機能の拡充

市民活動サポートセンターの管理運営

平成29年度の目標	平成29年度の結果
市民活動サポートセンター 団体登録数 137団体 ネットワークに関する相談件数 延べ60件	市民活動サポートセンター 団体登録数 163団体 ネットワークに関する相談件数 延べ40件



市民活動サポートセンターは、社会貢献活動を行う市民活動の拠点施設です。市民活動についての相談・アドバイスをはじめ、団体同士や団体と市民のネットワークづくりの支援を行っています。

②各種団体・サークル等活動の支援

環境団体・サークル等の担い手発掘に向けての支援

平成29年度の目標	平成29年度の結果
ステップアップ・チャレンジ会議の 運営/イベントを通した活動紹介	ステップアップ・チャレンジ会議の 運営/イベントを通した活動紹介



平成26年度から本格的に始動したステップアップ・チャレンジ会議は環境検定チームと省エネ推進チームが毎月運営会議を開催し、環境意識の高揚、省エネの普及啓発に取り組みました。また環境フェアや京都環境フェスティバルへの出展を通して、活動の紹介・メンバーの募集を今後も引き続き、ステップアップ・チャレンジ事業の推進とともに、新たな担い手を発掘する機会を作り、活動の裾野を広げていきます。

③中間支援組織母体の立ち上げに向けたプラットフォームづくり

団体間連携の促進

平成29年度の目標	平成29年度の結果
交流会等の開催	イベントを通じた交流

環境フェアやサポセンフェスティバル、レトロモダンのイベントを通じて団体間の交流を図りました。



(2) 環境を担う人づくり・人結び

①環境活動を担う人づくり

地域の環境活動を担う人材養成講習会・研修会の実施

平成29年度の目標	平成29年度の結果
受講者数延べ85人	受講者数延べ81人

平成30年2月に西山森林整備推進協議会主催で、森林ボランティア養成講座（受講者18人）を実施しました。当日は小学生から70代までの幅広い世代の方が参加し、西山の取り組みについての説明と安全面についての講習の後、竹林に入って整備作業を体験しました。実習にあたっては、市内の2つのボランティア団体にもご協力いただき、団体紹介やメンバー募集、意見交換など交流を図り、参加者がボランティアとして一歩を踏み出すための工夫を心がけました。



<教員向け>西山の自然を活用した環境学習のオリエンテーションの実施

平成29年度の目標	平成29年度の結果
延べ124人	延べ134人

小学校で西山をフィールドとした環境教育を積極的に行ってもらうため、新任の教員や長岡京市に初めて着任した教員向けにオリエンテーションを実施しています。平成24年度からはじめたオリエンテーションは、各小学校に周知されたこともあり、受講者数も定着してきました。（H29年度：25人）実地研修では、西山で活動しているボランティア団体の方に案内や説明のご協力をいただき、教員とボランティア団体との連携を図るとともに、環境学習や遠足に活かせる様、より実践的な研修を目指しています。講習内容は、神足小学校による里山体験学習の取組み発表、西山の自然観察等についてでした。



西山での研修の様子

②グリーンコンシューマー活動の支援

グリーンコンシューマー活動の支援

平成29年度の目標	平成29年度の結果
啓発活動の実施	市役所における グリーン購入適用範囲 拡大促進



市役所では、文具類や紙類などの117品目をグリーン調達品目として、グリーン購入を推進しており、平成29年度のグリーン購入比率は、99%を維持し定着しています。

平成29年度については、具体的な啓発活動の実施には至りませんでした。今後は関係団体等との連携を図りながら啓発の在り方や啓発方法について検討していきます。

③環境地域通貨の導入

エコストアを活用した地域通貨の検討

平成29年度の目標	平成29年度の結果
実施	庁内ワーキング会議での 地域通貨の検討



環境地域通貨とは、環境負荷を減らすために地域内で循環し、何らかの価値を持ち流通する通貨をさします。地域通貨の実施に向けて本市にふさわしいあり方について庁内ワーキンググループで検討しましたが、具体的な結論には至っておりません。今後はこれまでの課題を整理し、次期計画に向けて考え方をまとめていきます。

(3) 環境学習の推進

①環境学習の機会づくり

小中学校の環境学習の充実

平成29年度の目標	平成29年度の結果
各学年指導時間数 小学校20時間/学年・年以上 中学校5時間/学年・年以上	各学年指導時間数 小学校18.63時間/学年・年 中学校13.58時間/学年・年



環境学習は、すべての小中学校で実践されており、各学校で行われている環境に関する学習時間を学年と学校数で割りました。また授業時間中だけでなく、休み時間や放課後などの取り組みも充実してきています。学校により実践内容に違いがありますが、学校農園をはじめ、井戸や生ごみ堆肥化、ホタルの生態とふ化、太陽光パネルといった各学校の特色を活用した学習が行われています。中学校でも教科書を中心とした学習のほか、長岡京市の特色である「西山」や「竹」についての学習を行っています。

環境学習会等の開催回数・参加者数

平成29年度の目標	平成29年度の結果
開催回数 9回 参加者数 290人	開催回数 8回 参加者数 229人

出前講座（3回）・環境講演会・スターウォッチング（夏/冬）・バードウォッチングを実施しました。また4回目の開催となる「長岡京環境検定」は、30名が受検しました。今後も、より身近に参加できる環境学習の機会づくりに取り組んでいきます。



バードウォッチング（カワセミ）

子どもエコ教室・環境教育ミーティング、放課後子ども教室等の実施

平成29年度の目標	平成29年度の結果
参加者数390人/年	参加者数 334人/年

子どもエコ教室では、環境保全について考えるきっかけを提供するため、市内小学生を対象として2回実施しました。昨年より実施回数が1回減となった影響もあり、参加者数は減少しました。また、環境教育ミーティングにおいては、環境の都づくり会議との共催として2ヶ月に1回実施しましたが、昨年より参加者数は減少しました。その他、小泉川自然観察会やいこいの森体験、炭焼体験、水育、エネルギーと環境を学ぶ等の講座を開催し、環境学習の推進に努めました。



②西山を活用した自然体験学習の推進

西山ファミリー環境探検隊の実施

平成29年度の目標	平成29年度の結果
4回・90人参加	3回・70人参加

西山ファミリー環境探検隊は、西山をフィールドにして、家族で自然を楽しんでもらう事業です。平成25年度から京都府立大学の学生サークルとの連携を始め、ボランティアや大学生の活躍によって活動自体が活気づき、徐々に参加人数も増えてきました。今後も、身近にある西山の魅力を知ってもらうとともに、家族や参加者同士の交流も深められるようなプログラムを企画していきます。



西山ファミリー環境探検隊

西山を活用した環境教育の実施

平成29年度の目標	平成29年度の結果
小学校10校	小学校10校

春の遠足では、10小学校全校が西山周辺や西山キャンプ場へ自然観察などに行きました。遠足の際には、西山で活動するボランティア団体が同行し、児童への説明やアドバイスなどの支援を行っています。

薪ストーブを設置している神足小学校では、将来の森づくりに向けた新しい環境教育プログラムとして、西山で拾ってきたどんぐりを学校で苗木に育て、その苗木を3年生が西山に植樹するという実践的な学習に取り組んでいます。また冬には拾ってきた柴や薪を用いて、薪ストーブの火入れ式を行っています。



どんぐりの苗の植樹

③環境啓発型イベントの開催、イベントへの出展

環境フェア・長岡京竹あそびなどのイベントの実施

平成29年度の目標	平成29年度の結果
参加者数延べ約9,000人/年	参加者数延べ約4,490人

平成29年度は、6月に「ホテル観賞のタベ」、8月には「打ち水大作戦」、10月サボセンフェスティバル、レトロモダン（中開田公園のみ）、11月には「環境フェア」を開催しています。いずれも事業所や環境活動団体の皆さんと一緒に市が主催や協力をして実施しています。また自然環境の大切さや身近な環境への取り組みの必要性を啓発し、周知するためのイベントです。



長岡京市第二期環境基本計画進捗状況について

《行政施策目標》

	目標内容	H 3 4 目標値	H 2 9 目標	H 2 9 結果	評価	報告書頁
施策 1	再生可能エネルギーの世帯当たりの普及率	5 %以上	3. 6 3 %以上	3. 6 1 %	○	P. 4
施策 2	一人一日当たりの収集ごみ量	5 2 3 g 以下	5 4 0. 5 3 g	5 2 5. 9 g	◎	P. 1 3
施策 3	西山の森林のCO ₂ 吸収量	1, 3 0 0 t・CO ₂ 以上	1, 4 1 6 t・CO ₂ 以上	1, 4 8 7.0 8 t・CO ₂	◎	P. 1 8
施策 4	住民一人あたりの公園面積	公園面積の増加	3. 0 4 m ²	3. 2 2 m ²	◎	P. 2 3 / 2 4
施策 5	環境ボランティア受講者数	受講者数の増加	8 5 人	8 1 人	○	P. 2 9 / 3 0

《ステップアップ・チャレンジ目標》

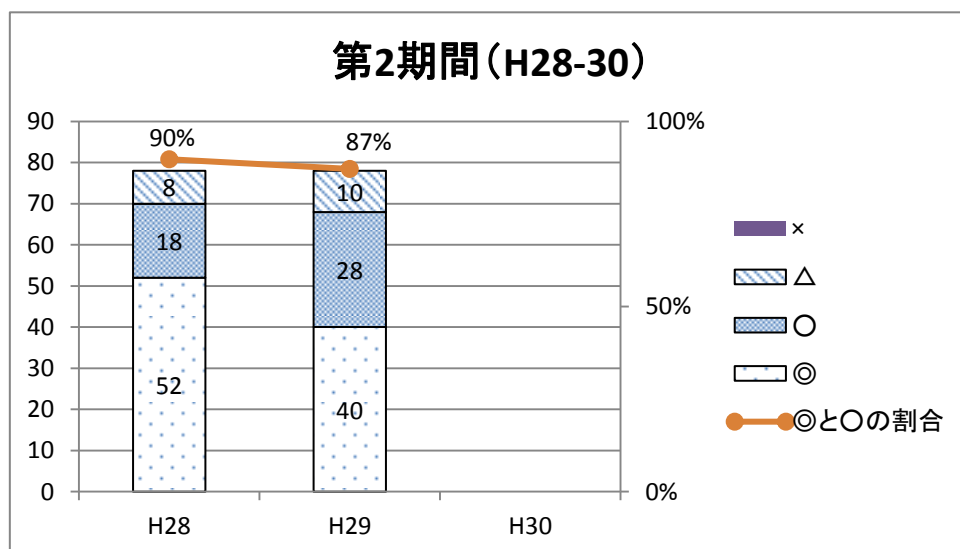
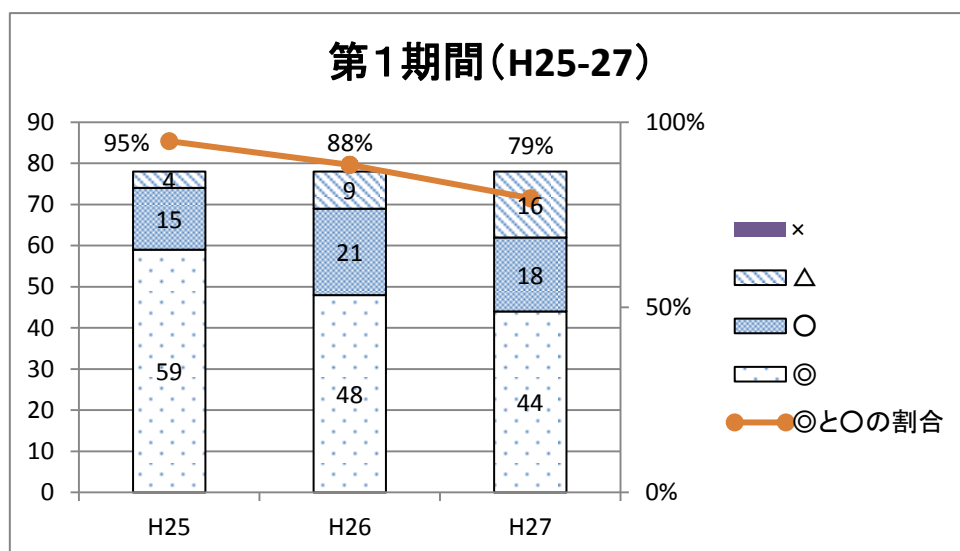
目標内容	H 3 4 目標	H 2 9 目標	H 2 9 結果	評価	報告書頁
再生可能エネルギーの世帯当たりの普及率	5 %以上	3. 6 3 %以上	3. 6 1 %	○	P. 4
西山の森林整備面積 西山の森林のCO ₂ 吸収量	2 5 0 h a 以上 1, 3 0 0 t・CO ₂ 以上	2 8 8 h a 1, 4 1 6 t・CO ₂ 以上	2 9 5. 0 9 h a 1, 4 8 7.0 8 t・CO ₂	◎	P. 1 8
環境イベント参加者数	延べ80, 0 0 0 人以上	約9, 0 0 0 人／年	約4, 4 9 0 人／年	△	P. 3 3

●平成 29 年度全体の評価

評価/基本施策	1	2	3	4	5	計	◎○の 小計	◎○の 割合
◎	8	7	9	13	3	40	68	87.2%
○	7	5	5	4	7	28		
△	4	2	0	0	4	10		
×	0	0	0	0	0	0		
計	19	14	14	17	14	78		

※4（5）①を2項目に分けて記載

●第1 期間及び第2 期間の達成度の推移



長岡京市生活環境審議会の評価・意見および市の考え方

長岡京市では、本計画を策定および進捗管理を行う際に、意見を求めるため「長岡京市生活環境審議会」を設置しています。この審議会には、市民や事業者、諸団体と行政の委員が参加し、PDCAサイクル（計画し、実行し、チェックし、改善する仕組み）を運用しています。本計画の取り組み主体は行政ですが、それを行政自身で評価するのではなく、多様な主体が加わって評価します。

これにより行政以外の視点でチェックをし、取り組みを改善していくことができます。この章では、審議会委員からの評価と意見をまとめるとともに、市の考え方について報告します。

全体の評価について

委員意見（小幡副会長）
全体評価の経年変化がわかるようにグラフを記載してはどうか。
市の考え方
経年変化がわかるようにグラフを作成します。

マイクロ水力発電設備について

委員意見（奥谷委員）
「地域内での資源・エネルギー循環システムを官民連携して構築しました」という記載について締結した協定の内容を踏まえ、もう少し説明を加えてはどうか。
市の考え方
説明を追記します。

再生可能エネルギーの世帯当たり普及率について

委員意見（木原委員）
2030年までにゼロエネルギーハウスが基本的には標準仕様となっています。それまでにあと10年となっていますが、新築住宅の太陽光発電設備設置が相当伸びていないといけな状況ですが、報告書を見る限りあまり伸びているようには思えません。そこで、長岡京市では集合住宅が増えているのか、それとも一戸建て住宅が増えているかなどの検証をしてはどうか。 また再生可能エネルギーの世帯当たり普及率ですが、一戸建てに居住している世帯で算出した方がわかりやすくなるのではないかと。
市の考え方
市では住宅用自立型再生可能エネルギー導入事業費補助金の制度を実施していますが、住宅メーカーなどの事業者から多くの問い合わせが入っています。そのことから新築される際には、多くの方が太陽光発電設備を設置した新築住宅を購入されていると推測しています。実際の割合やどのように検証していくかなど今後検討していきたいと思ひます。 次に再生可能エネルギーの世帯当たりの普及率を一戸建て世帯のみで算出するとなった場合、住宅・土地統計調査の数値を使用することになると思ひますが、5年に1度の調査であるため、その数値でよいのかという疑義があります。また平成34年度には5%という目標を掲げており、今まで全世帯数を使用してきたことを勘案しながら検討していきたいと思ひます。

住宅エコリフォームについて

委員意見（中山委員）
これまでに補助金の交付を受けた申請者に対してアンケートを実施してはどうか。
市の考え方
これまでの申請者にアンケートを送付し、エコリフォームの効果などを確認し、詳しい情報を聞き取り、回答者の承諾を得た上で、ホームページ等に掲載し、エコリフォームの良さや助成制度について理解していただけるような形でアンケート結果を活用したいと思います。

環境地域通貨の導入について

委員意見（江川委員）
環境地域通貨は色々な課題がある中で、いつまでもこのテーマに時間をかけていていいのかと思います。他の地域でも成功事例がほとんどなく、このあたりで結論を出してもいいのではないかと。
市の考え方
この目標は第二期長岡京市環境基本計画のなかで単位施策として掲げているため、この項目を廃止するとはなかなか言い難いところがあります。次期実施計画指標として定めるのではなく、導入に至らなかった原因の検証を行い、評価を実施したいと思います。
委員意見（奥谷委員）
目標指標として定めたときから時間が経過し、時代が変わってきており、目標も見直していった方がいいと思います。地域通貨のところで、「今後も実施に向けての試行錯誤を続けていきます。」と記載されていますが、これまで取り組んできた結果、進展がなかったのであれば、「課題の整理をして次期計画に向けて考えをまとめていきます。」というように終わる方向の表現にした方がいいと思います。
市の考え方
本日の審議を受けて、本文の記載を修正します。